令和３年度　山口大学教職大学院ニューズレター

学燈 gakutou

【第１６号】

「山口大学教職大学院６年目のスタートに寄せて」

教職実践高度化専攻長　佐々木　司

令和２年から３年にかけて，世界は新型コロナウイルス感染症という災禍に見舞われました。対面授業がオンラインに変わり，学校実習に行くこともできないなど，それまで経験したことのない変化や対応を余儀なくされましたが，幸いにして教職大学院の３コースは，院生諸君や教職員の努力と関係者の皆様のお力添えにより，大きな支障なく教育活動を進めることができています。ここに心より感謝申し上げます。

さて，山口大学教職大学院は設置から今年で６年目を迎えました。学校経営コースと教育実践開発コースはすでに４期までの修了生を，そして平成 31 年度に新設された特別支援教育コースは１期の修了生を，いずれも山口県を中心とする教育界に送り出しています。

ご承知のように，本教職大学院は，山口県教育委員会，県内市町教育委員会との連携，協力体制のもと，コミュニティ（地域）拠点方式を採用し，大学での学びはもちろんのこと，学校現場における実践から日常的に学び，理論と実践の往還をはかることとしております。他大学の教職大学院は，特定の時期にだけ学校実習を行うのが一般的ですが，我々は，年度初めから広義の実習がありますので，学校を含む地域において日常的に実践研究を進めることができるわけです。

ただし，漫然と学校に行き，学校で過ごすだけでは顕著な成長は期待できません。ストレートマスターと称している学部新卒院生も，現職教員院生も，「学校」という場に安住することのないよう，十分注意してください。

そのためにぜひ心がけてほしいのが，「学校実習日録」の事前記入です。その日の学校実習の重点目標が何であるのか，その目標達成のためにどのような活動を行い，いかなる指導を誰から得ようとするのか。たしかに，日録は日々の記録であり，その意味では事後の記入が普通でしょうが，何かを得ようとするのであれば，その「何か」を具体的に定めておいて，自ら奪い取るぐらいの姿勢で取り組まないと，目標達成も覚束ないでしょう。

６期生のみなさんは，入学から３か月ほどが過ぎ，おそらく最初はやや戸惑いもあったであろう学修リズムに慣れてきた頃だと思います。でも，その「慣れ」が，今度は自己を閉じ込めてしまうかもしれません。怖いことです。そのことは，教職大学院という組織も同じです。設置から５年が過ぎ，「慣れ」という安心領域に身を置きすぎると，いつの間にか「慣れ」が「ダレ」になってしまいます。

同じ航路も初航路。気を引き締めて，また皆様とともに新しいことにもチャレンジしていく，そんな６年目にしたいと思います。

「教職大学院・学校経営コース　今年度のスタートにあたって」

学校経営コース長　静屋　智

山口大学教職大学院がスタートして６年目を迎えています。山口大学教職大学院の特徴としては，地域拠点方式が挙げられます。学校経営コースのめざすものは，山口県内のそれぞれの地域や県立学校から現職教員の院生を迎えることによって，これからの山口県の教育をリードし支えていく人材をどの地域においても，全県的に増やしていこうとすることです。この取組の中核となるのは，山口県教育委員会・各市町教育委員会と山口大学との強い連携と，院生を中心とした人材育成戦略や組織マネジメント戦略の共有であると考えます。

２年間という短い期間でそれぞれの院生の成長を保障するためには，教職大学院という組織全体でめざす方向性が重要になります。４月からの学校経営コース研究会では「学校実習の視点」「学校組織を活性化するマネジメント」等について現職教員の院生に伝えてきました。「これからの学校のあるべき姿・めざす方向性」を意識しながら，「なぜそうするのか，何のためにするのか」「何を成果ととらえるのか，そのために何をカクニンすべきか」等について省察を繰り返すことが大切だと考えます。取組の本質に向かう意識を確認し共有することを中核としながら，「自分ごと・自分たちごと」としてマネジメントし「プラスをつくり続ける」姿勢を，今後の授業と学校実習，フィールドワーク等での取組に反映してほしいと思っています。

「しっかり語れる教師を目指して」

教育実践開発コース長　和泉　研二

教師の力量は，大学の講義で習うことや指導案のように言葉に置き換えることができる「形式知」と，言葉に置き換えることが難しく，経験の中から何となく身に付いてくる「暗黙知」からなると言われることがあります。そして，経験の浅い教師の「形式知」には，自身の実際の経験に基づいておらず，中途半端に浮いた言葉に留まっているものが多いと言われており，そのような段階の「形式知」は「擬似形式知」と呼ばれています。また，経験の浅い教員の「暗黙知」のなかには，本当は言葉で語ることができるのに，単にその努力がなされていないために語れないだけの「擬似暗黙知」も多いと言われています。

皆さんにはこの２年間を通して，大学での講義と学校実習の往還，教育というキーワードで結ばれた友人や現職の先生等との絶え間ない語り合い，授業研究や事例研究を繰り返しながら，表面的にしか理解できていない「擬似形式知」や何となく感じているだけの「擬似暗黙知」を，しっかりと意識下に捉え，自分自身の言葉で自信を持って語ることができる確固たる「形式知」に昇華し，再構築していってほしいと思います。学習指導においても生徒指導においても，聞いていて「なるほど」と思うような話を，自らの「形式知」と「暗黙知」に基づいて「しっかり語れる教師」になることを目指してほしいと思っています。

人を育てる教職は，やりがいのある崇高な職業だと思います。目標を高く持って努力を続けて行きましょう。

「特別支援教育コースについてのご紹介」

特別支援教育コース長　松岡　勝彦

新入生の皆さま，ご入学おめでとうございます。

特別支援教育コースでは 2021 年 3 月に初めての修了生を世に送り出すことができました。ストレートマスターの修了生 1 名，現職教員の修了生 1 名の計 2 名です。今後の活躍が期待されます。一方，4 月には，現職教員の大学院生 1 名，ストレートマスターの大学院生 3 名の計 4 名の新入生を迎えることになりました。4 名の皆さんにも大きな期待を寄せているところです。

さて，当コースは，特別な教育ニーズのある児童生徒の実態に即した効果的かつ効率的な指導力，関係者とのコーディネーション能力を備えた地域や学校をリードできる人材を育成することを大きな目的としています。そして，この目的を実現するため，理論と実践を往還するプログラムを取り入れています。児童生徒の行動査定，効果的指導方法の実施，効果評価，必要に応じた指導方法の改善というサイクルでよりよい指導方略のあり方をエビデンスに基づいて探求していきます。このようなこの 4 段階を通した介入方略が実施可能な教員を世に送り出せるよう，私たち大学教員も精進したいと思っておりますので，どうぞよろしくお願い申し上げます。

【　令和３年度　山口大学教職大学院教員一覧　】

コース	氏名	担当科目
学校経営	佐々木　司	「教育行財政の制度と課題」「学校関係法令の適用と課題」「教育の制度と政策」「学校経営と組織開発」「学校評価と学校改善」「学校組織マネジメント探求」他
	静屋 智	「学校危機管理，リスクマネジメントの理論と実践」「教育の制度と政策」「教育行財政の制度と課題」「教育行政インターンシップ」他
	霜川 正幸	「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践」「山口県教育の現状と課題」「現代的課題と授業改善の実践」他
	時乗順一郎	「学校危機管理，リスクマネジメントの理論と実践」「教育行政インターンシップ」「教職高度化実践研究」「教職総合実践」他
	松田　靖	「学校関係法令の適用と課題」「学校評価と学校改善」「生徒指導の実践と課題」「教育行財政の制度と課題」他
教育実践開発	青木 健	「体育科教育指導法特論」「保健体育科教育内容構成特論」他
	足立 直之	「生徒指導の実践と課題」「学級経営開発基礎」他
	阿濱 茂樹	「知識基盤社会における情報活用の理論と実践」「技術科教育指導法特論」「技術科教育指導法演習」「技術科教育内容構成特論」「情報科教育指導法特論」他

教育実践開発	上地 広昭	「保健体育科教育内容構成特論」他
	岡村 吉永	「技術科教育指導法特論」「技術科教育指導法演習」「技術科教育内容構成特論」「技術科・ものづくり内容開発研究」他
	川﨑 徳子	「子ども理解に基づく教育の理論と実践」他
	岸本 憲一良	「国語科教育指導法特論」「国語科教育指導法演習」「国語科教育内容構成特論」「教科教育法国語」他
	栗田 克弘	「教科カリキュラム開発，授業デザインと評価」「授業実践高度化演習」 「理科教育指導法特論」「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
	佐伯 英人	「理科教育指導法特論」「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
	斉藤 雅記	「体育科教育指導法特論」「体育科教育指導法演習」「保健体育科教育内容構成特論」「教科教育法体育」他
	重松 宏武	「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
	生嶌 亜樹子	「教職高度化実践研究」「教職総合実践」他
	白石 敏行	「子どもの発達と教育の課題」他
	鷹岡 亮	「知識基盤社会における情報活用の理論と実践」「授業実践高度化演習」 「情報科教育指導法演習」「情報科教育内容構成特論」他
	高橋 俊章	「英語科教育指導法特論」「英語科教育指導法演習」「英語科教育内容構成特論」「英語科授業実践基礎演習」他
	*田邊 敏明	「教育心理学特論演習」「人格心理学特論」「臨床心理基礎実習」「教育相談・特別支援教育の理論と実践」「スクールカウンセリングの実践と課題」 他
	田本 正一	「社会科・公民教育指導法特論」「社会科・公民教育指導法演習」 「社会科教育内容構成特論（公民領域）」他
	成川 ひとみ	「音楽科教育指導法演習Ⅰ」「音楽科教育内容構成特論」他
	西 敦子	「家庭科教育指導法特論」「家庭科教育指導法演習」「家庭科教育内容構成特論」「教科教育法家庭」他
	西尾 幸一郎	「家庭科教育内容構成特論」他
	猫田 和明	「英語科教育指導法特論」「英語科教育指導法演習」「英語科教育内容構成特論」「語学教授法演習」他
	坂東 智子	「国語科教育指導法特論」「国語科教育内容構成特論」他
	藤上 真弓	「キャリア教育実践演習」「特別活動の実践と課題」「教職員研修開発実践演習」「教職員研修開発基礎」「学級経営開発基礎」他

教育実践開発	星野 裕之	「家庭科教育内容構成特論」他
	前田 昌平	「教科カリキュラム開発，授業デザインと評価」「授業技術の理論と実践」他
	森下 徹	「社会科・地理歴史教育指導法演習」「社会科教育内容構成特論（地理歴史領域）」「社会科基礎演習」他
	*吉川 幸男	「社会科・地理歴史教育指導法特論」「社会科・地理歴史教育指導法演習」「社会科教育内容構成特論（地理歴史領域）」他
	吉田 貴富	「美術教育指導法特論」「美術教育指導法演習」「美術教育内容構成特論」他
	和泉 研二	「山口県教育の現状と課題」「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」「理科内容開発研究」他
特別支援教育	嬉 真里子	「特別支援教育コーディネーター校内実践論」「教職高度化実践研究」「教職総合実践」「特別支援教育における教育実践の方法」他
	須藤 邦彦	「特別支援教育における教育実践の方法」「行動問題解決支援論」「行動問題解決支援演習」「特別支援教育コーディネーター校内実践論」「特別支援教育コーディネーター地域実践論」他
	松岡 勝彦	「行動問題解決支援論」「行動問題解決支援演習」「特別支援教育実践ケーススタディ」「特別支援教育コーディネーター校内実践論」「特別支援教育コーディネーター地域実践論」他
	松田 信夫	「特別支援教育の基礎と動向」「特別支援教育モデルケーススタディ」「特別支援教育開発演習」「特別支援教育における教育実践の方法」「特別支援教育コーディネーター地域実践論」他
	宮木 秀雄	「特別支援教育の基礎と動向」「特別支援教育モデルケーススタディ」「特別支援教育開発演習」「行動問題解決支援論」「特別支援教育実践ケーススタディ」他

・＊（非常勤）

・その他，各教科の指導法や内容構成特論等で，教科教育や教科専門の教員が多数担当

【　教職大学院に入学して　】

「学校経営コース　ＭＩ（現職）」

教職大学院に入学して３か月が経ちました。たった３か月ではありますが，これまでの教員としての視点が大きく広がりました。それは一教諭ではなく管理職の視点から学校を見つめるという視点です。講義を通じて，中央教育審議会答申や学校関係法令をじっくりと読み他の院生や先生方と議論する機会に恵まれています。また，原籍校だけでなく多くの校長先生から学校経営についてお話を伺い，原籍校と比較検討することで我が校の強みは何か，どこに課題があるのかを考えるきっかけとなりました。日々，学ぶ機会をいただき，多くの方に支えられていることを感じています。我が校の学校改善に向けて，「私の研究」ではなく「先生方と取り組む研究」を目指して，今後も先生方，地域の方からご協力をいただきながら研究を進めていきたいと考えています。

〇経営コースある日の過ごし方

１・２時限から授業がある曜日もあります
授業がないときは院生同士で情報交換をしています

授業準備（レポート作成）や情報交換をしています
各コースでミーティングがあるときもあります

8:40	10:20	11:50	12:50	14:30	16:10	17:40
１・２時限	３・４時限 教育相談・特別支援教育の理論と実践	昼食	５・６時限	７・８時限 研究室で研究の進捗状況を報告，今後の検討	９・10 時限 教科カリキュラム開発・授業デザインと評価	

院生の控え室や大学図書館で過ごすこともできます

学食を利用することもできます

９・10 時限があるのは，令和３年度前期は週１日です

「教育実践開発コース　ＭＩ（ストレートマスター）」

教職大学院での学びは大きく分けて２つあります。

１つ目は学校実習校での実践の一つ一つを丁寧に振り返り，次につなげることができることです。大学院での学びは，講義に参加することで学校実習校での実践を理論に立ち返ってより深めたり，現職の先生方と会話を通して子どもたちが何を考えて行動しているのかを客観的な視点から考察したりすることにあります。理論と実践がつながることで，次週の学校実習での実践目標が明確となるといった好循環な学びのサイクルを実感しています。

２つ目は，授業の展開について，どのようなことに留意すればよいのか考えられるようになってきました。声掛けや板書の方法，子どもの思考をゆさぶる問いかけはどのようなものか，具体的な手立てを講じることで子どもたちの反応も変わり，子どもたちのために授業を改善することの楽しさを感じています。

今後は，学校実習で教師としての経験をしていくと同時に，学校実習で得られた経験をさらに理論とつなぎ，自分の考えをさらに深め，子ども達とともに成長できる教師になれるよう努力していきたいです。

〇教育実践開発コースある日の過ごし方

大学院に通う日の空き時間や昼食の時間では大学教員と院生が情報交換を行ったり，交流したりしています。現職の先生の指導案を見せていただいたり，実地授業の相談に乗ってもらったりして貴重な時間を過ごしています。院生同士でも実習での意見共有や実地授業の反省や検討を行い，校種や教科にとらわれない共通の課題の把握や授業実践の工夫などを協議しています。

【学校実習の一日】

8:10	8:35	9:25	10:30	11:20	12:05	13:35	14:25	15:15	16:00
朝の会	１時限	２時限	３時限	４時限	給食 昼休み	５時限	６時限	職員会議	打ち合わせ

実地授業や授業参観を行います

実地授業の打ち合わせやその日の実習での情報共有を行います

「特別支援教育コース　ＭＩ」

〇久方ぶりの学生生活は，これまでの実践を振り返り，新たな課題に向き合う絶好の機会となっています。専門的な知識をじっくり学べる講義，高い志をもつ仲間たちとの会話，原籍校に戻っての実践…。教職大学院で学ばせていただけることへの感謝の気持ちを忘れずに，日々を大切に過ごしていきたいです。**（現職教員）**

〇私は，学部から大学院に進学しましたが，明らかに違うことは１週間のうちに１～２回学校実習にいくことです。１週間のうちに授業やゼミと学校実習があることで，学んだことを現場ですぐに生かすことができたり，友人や現職の先生方と意見交換できたりするため，理論と実践の結びつけや，いろいろな視点の獲得につながっています。**（山口大学 教育学部 特別支援教育コース卒）**

〇大学院での授業では協議や発表が多く，学部生の時とはまた異なる楽しさがあり，学びたいことが十分に学べる環境です。学校実習では，大学・学校実習校の双方の先生方からご指導いただけるため，自身の実践に対し多くのフィードバックが受けられます。理論と実践の往還を繰り返しながら，２年間で実践力をつけていきたいです。**（山口大学 教育学部 小学校教育コース卒）**

〇教職大学院には経歴は違えども，互いを受容し，助け合う仕組みが成立しています。研究課題の遂行というゴールを共通に，サポートし合うことで高め合うシステムは，個と個，個と集団，そして，個と学問がつながる場である学校の望ましい在り方を体現しているのかもしれません。２年間の学びでいかに自身を成長させられるか，楽しみです。**（他大学 経済学部卒）**

【　教職大学院の授業紹介（学校経営コース１年）　】

一方通行だけの講義型の授業はもはや存在しません。教える側と教えられる側が対話しながら，共に答えを探す対話型の授業が大学院において実践されています。対話は，自ら発言し，相手に理解してもらうという本質的な喜びが感得できると同時に，自分が話したことと，相手の話とでやり取りし，そこに新たな知を想像していくクリエイティブな活動です。大学院の授業においては，活発な対話状況を生み出すために院生が授業前に設定されたテーマに応じて論点を整理し，自分の意見を論じることができるようにしています。授業におけるテーマは『学校改善と評価』であったり，『カリキュラム開発の理論と実践』であったりと学校現場に即した実践的なものが設定されています。そして，実際の授業においては互いに論じ合いながら意見の違いを対立と捉えずに，違いを楽しみ，違いに見え隠れする他者の経験や価値観を受け止めながら合意形成を図るような対話を展開していきます。院生は校種も経験年数も異なるため，多様な視座から意見が表出し，対話がより一層活性化していきます。適宜，教授からも院生の対話を俯瞰した上で，学びに深まりが出るように的確な示唆や資料提示がなされます。こうして，新しいものの見方を手に入れることができる質の高い対話型の授業が展開されていくのです。それはさながら対話型の 0JT が授業の中で実践されている様相でもあります。大学から学校現場での実習に赴いた際には，自ら問いを立て解決すべき問題を見つけていく力や，決めたことをやりきる力，決めたことができなかったとしても改善につなげていける力，周囲を気遣い調整力を発揮しつつチームとして働く力が身につき，周囲からの信頼を得ながら活動することができていると実感しています。

大学での対話型の授業を通した学びにより，学校現場で自ら考え行動できる「自律型人材」として貢献できる力をつけることができると確信しています。

【　教職大学院の特徴ある取組　】

「　授業公開　」

山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻３コースでは「授業公開」を行っています。大学院生は学部生と同様に，前期，後期それぞれのはじめに授業の履修登録を行い，一定期間の授業に臨みます。また，それとは別に，興味のある授業については授業者の承諾を得て「聴講」という形で授業に参加することができます。３コースで行っている「授業公開」は，大学院生以外にもこの「聴講」という形で授業を公開しているものです。この授業公開の目的は，教職大学院の仕組みや取組，授業内容や授業の様子などについて直接参観することを通して広く知っていただくことです。対象については大学院生の同僚や家族，友人などで制限を設けていませんが，大学院生を通した事前連絡が必要となります。ぜひ，教職大学院に興味のある方は，大学院生の学びに興味のある方は，お気軽に大学院生にお声かけください。

「　学校組織マネジメント探求　」

この授業は，①学校組織マネジメントの基礎（山口大学），②学校組織マネジメント指導者養成研修（独立行政法人教職員支援機構オンライン研修，教職大学院向け集中研修講座），③リフレクション（山口大学）という流れで行われます。①では，学校組織マネジメントの基礎を学び，原籍校の強みと課題を把握します。その後，②で独立行政法人教職員支援機構と連携し，高度な演習を行います。さらに，③で山口大学の先生方の指導を受けながら，原籍校の課題解決の戦略を構想します。これらの授業で学んだことをもとに，教職大学院と原籍校で理論と実践を往還させながら課題研究を進めていきます。

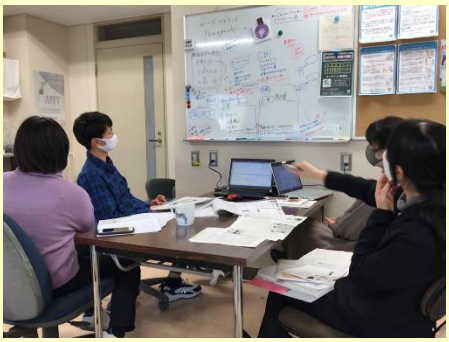
「　ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course　」

学校や地域の教育諸課題の解決に向けた教職実践と省察，課題研修等を行うことにより，ミドル・スクールリーダーとしての資質能力の向上，教職実践課題の解決力，省察力の醸成を図ることを目的として行われるプログラムです。教職大学院生に限らず，県内外から広く参加者を募っています。全国から著名な先生方をお招きし，それぞれの研究分野の最先端のお話が聞けることもこのプログラムの大きな特徴です。昨年度は学校組織マネジメント，教育関係法令，インクルーシブ教育，人材育成，生命尊重，読書・表現活動の魅力など多方面の話題について研修を深めました。コロナ禍において，オンライン，対面といった参加方法を各自で選択するハイブリッド形式で行っています。

「　ピア・サポート　」

ピア・サポートとは，「課題や悩みに直面する人が同じような立場の人から支援を受ける仲間同士の支え合い活動」のことです。

教職大学院では，大学教員の指導援助のもとに，同期同士，Ｍ１とＭ２，現職教員とストマス院生など，年齢や教職経験年数を超えて，相互の人間関係を豊かにする学習の場を設定しています。この「学燈」においても３コースのＭ１，Ｍ２で構成されたペアリンググループで協働して作成にあたっていますし，現職教員とストマス院生が一緒になって授業づくりをして模擬授業を行うこともあります。この協働活動が知識やスキルを共有し，仲間意識を高め，支え合う実践活動となっています。



現職教員とストマス院生が一緒に「道徳」の授業を考えているところ

また，教育学部の授業の「教職概論」においては現役大学生と，ちゃぶ台次世代コーホートにおいては教職志望学生や若手教員と，院生が交流するというピア・サポートも行っています。

これらの取組を通して，それぞれ教員として，指導者としての力量を形成するとともに，体験を語り合い，感情を共有することで安心感や自己肯定感を得ながら，大学院生活を送ることができています。

令和
3年度

山口大学教職大学院

オンデマンド説明会

時 間　いつでも参加可能　　場 所　どこからでも参加可能

学校経営コース

教育実践開発コース

特別支援教育コース

あなたの「なんだこれ？」のその疑問！
私たち院生が丁寧にご説明します。
まずは、ご連絡ください！

・学校経営コース　松本　純治　matsumoto.junji@ysn21.jp
・教育実践開発コース　西村　幸大　a003mnu@yamaguchi-u.ac.jp
・特別支援教育コース　島田　雅子　shimada.masako@ysn21.jp
・全コース　佐々木　司　tsasaki@yamaguchi-u.ac.jp

※教育学部A棟A305、222でも受け付けています。

山口大学　教職大学院　HP